

野積川の生物調査にあたって

福田 保

〒939-2187 富山市猪谷1541

An outline on the ecological survey of Nozumi River and its watershed, Toyama-shi, Toyama Prefecture, central Japan

Tamotsu Fukuda

1541 Inotani, Toyama-shi, Toyama 939-2187, Japan

富山県生物学会では県内の生物相を明らかにするとともに会員相互の連携と研鑽を促すことを目的として、2006年(平成18年)より共同で生物調査を実施してきた。県内を新川、富山、高岡、砺波の4地区に分け、順に比較的小規模の河川流域を中心とした地域を指定して実施している。これまでの12回は、第1回(2006年)南砺市平村猫池、第2回(2007年)魚津市角川、第3回(2008年)氷見市余川川、第4回(2009年)立山町栃津川、第5回(2010年)小矢部市渋江川、第6回(2011年)入善町舟川、第7回(2012年)氷見市仏生寺川、第8回(2013年)富山市黒川、第9回(2014年)南砺市山田川、第10回(2015年)県央地区:射水市下条川、第11回(2016年)上市町郷川、第12回(2017年)氷見市泉川である。

本年度選定した野積川は、神通川(じんづうがわ、岐阜県高山市の川上岳を源に、富山県の中央部を南北に約126km流れる一級河川)の支流で、富山市八尾町を流れている。白木峰(しらきみね、標高1,596m)を源に山間部を約22.0km北流し、八尾町高熊で右岸側から室牧川(むろまきがわ)に合流する。室牧川は合流点で井田川(いだがわ、流長約16.9km)となり、富山市鶴島で左岸側から神通川に合流する。野積川は多くの支流を集め、源から8.5km下った地点では右岸から東又谷(ひがしまただに、戸田峰の西側を北流する流長約4.0km)、さらに5.5km下った布谷地区で左岸から谷折川(たにおりがわ、祖父岳西部の谷折集落を流れる流長約4.0km)、室牧川合流点から0.4km上流の西葛坂では仁歩川(にんぶがわ、倉ヶ谷を源に仁

歩地区を流れる流長約8.0km)が左岸から合流している。上流は険しい渓谷で、中・下流は流域沿いに集落と田畑が点在する中山間地域である。

源の白木峰は草原・湿原が発達し野生動物も多く、1974年白木水無県立自然公園に指定された。白木峰に続く林道大谷線は調査前年10月の豪雨による陥没で、車両通行止めが年間続いた。

野積川上流に獺師ヶ原の地名があるように、かつてイノシシやクマの狩猟が行われていた。江戸時代には、この流域の地区は養蚕と紙すきが盛んで八尾地域を経済的に発展させた。特に野積地区は八尾紙の中心地で、版画用紙としての野積紙は芸術家から珍重された。一方、仁歩地区は提灯紙に用いられた松倉紙が有名であった。また、この地域の新田開発は古くからなされてきたが流域の川は底部を流れ、ため池はあるものの山は低いため水量が少なく、用水の整備が新田開発の課題であった。獺師ヶ原から角間へ流れる野積東部用水(延長約14.6km)は、文化・文政の時代に始まり昭和36年に全行程が完成する難工事であった。布谷から西葛原へ流れる野積西部用水(延長9.9km)は、昭和29年に始まり昭和38年に完成した。

今回の調査項目は植物(森林群落)、底生無脊椎動物、魚類、両生・爬虫類、鳥類、哺乳類である。合同調査日は2018年7月1日と9月30日としたが、調査日の追加や調査地点・方法はそれぞれの調査グループに任せた。

最後に、今回の調査にご協力いただいた地元の皆様に厚くお礼申し上げます。

(富山県生物学会副会長・前企画幹事長)



写真1 野積川上流（八尾町獵師ヶ原）



写真2 松瀬橋（八尾町西松瀬）



写真3 青根橋（八尾町水口）



写真4 室牧川との合流点（八尾町高熊）



写真5 支流の仁歩川（八尾町乗嶺）



写真6 桜窪ため池（八尾町宮ノ下）